四季報 No.72

鴨東通信

おうとうつうしん

冬

2008.12

てぃーたいむ
人文学と成果主義
藤井譲治

■私のノートから■
私の日本研究　金賢旭

特別寄稿
『医譚』復刊にのぞんで　酒井シヅ

史料探訪㉟
大樹寺の中世文書　堀江登志実

■源氏物語千年紀・古典再生に向けて〈第六回〉■
写本から版本へ　藤本孝一

過去３年間の刊行図書一覧

◉新刊案内◉
口頭伝承と文字文化
中世近世和歌文芸論集
空の調べ
幸田露伴の世界
近代工芸運動とデザイン史

思文閣出版

人文学と成果主義

藤井　譲治（京都大学大学院文学研究科教授・京都大学附属図書館長）

教育に予算を

―大学生の「学力低下」が問題になっていますが、先生から見て今の学生はどうでしょうか

京大でも、理系の先生方の間で問題になっているのが、学生に国語力がないということです。大学の専門学問を理解する前提としての国語的知識がなく、表現されていることが理解できないのです。京大でも来年度入試から国語が復活します。

また、いくつかの私立の大学では、物理学科なのに、高校で物理を履修していない人が入ってくるという問題が出てきています。どうするかというと、大学に予備校の教師に来てもらい、物理を教えてもらうのだそうです。そうしないと突然大学のレベルの話を始めても何もわからない。国語の比ではない問題です。入学試験を受けるときに、自分の偏差値を基準にして、そこに位置する大学からいくつも受験する。そのなかにたまたま物理学科があったりすると、そういうことが起こるようです。

京大生は入試で好成績で入ってくるわけですから、知識は持っています。今の教育システムで要求されていることはかなりの程度で身につけています。私たちがセンター試験を受けたら、きっと彼らの方がよくできるでしょう。ただ、自分で思考するという形での教育をあまり受けていないのだと思います。大学に入ったら自分でものを考えないといけませんが、そのときに彼らの学力はあまり役に立ちません。工学部の先生が国語力がないというのは、自分で考えて何かやろうとするときに役立つ国語力がないということです。

受験勉強というのは知識として覚えているだけで、全然役に立たないと、私たちもよく言われましたが、その傾向はいっそう進んでいると思います。できがいいとか悪いではなく、質が変わってきています。就職活動のハウツー本がありますね、こういう質問をされたらこう答えなさい、こういうことは言ってはいけないという、あのたぐいのものが今発達しています。教えないとできなくなってきたのです。これがおもしろい、これをやってみたいというのを自分で見つけられない学生がときどきいます。何がおもしろいのか探す時間がなくなってきているのかもしれないですね。私たちの世代は、人間が多すぎて教育が雑駁（ざっぱく）になっていた面があるかもしれませんが、逆に今は少子化という状況のなかで、先のような問題が顕在化してしまっているのです。

基本は教育にお金を使わないからです。国から国立大学法人への運営費交付金は、毎年１％ずつ削減されてきて、来年度は３％削減されます。３％削減を10年行ったらどうなるか。惨憺たるものです。30％近くの予算が消え、そして教員が消えるということです。１％削減は政府の予算全体にかかる制限ですが、それを教育にかけてもいいのかと思います。まだ研究なら、科学研究費補助金などの外部資金を取ってくれば曲がりなりにも何とかなりますが、教育は科研費のように５年間で一区切りつくかというと、決してそんなことはありません。学生を採って、５年で金がなくなりましたからやめます、というわけにはいかない。もう少し長期のスパンで考えてもらわないと、これはなかなか深刻だと思います。ただ、悲観だけしてもしょうがないので、その水準に合わせて教育をどうするのかということを考えないといけません。例えば、文部科学相の諮問機関である中央教育審議会が、「学士力」を高めようという方針をまとめ、文科省も期間付ですが予算をつけ始めています。教育への配慮をしないと大学だけではなく社会全体の教育体制が劣化していくと言っています。

学問に余裕がなくなった

―成果主義一辺倒の世の中で人文学のあり方は変わっているでしょうか

全体の社会も大学も成果主義ですから、すぐに成果が出る実学がどうしても強くなりますね。虚学とは言わないまでも、実学系でない学問分野は、評価

するときに、よく見えないと言われます。それはそうでしょう、世界的発見はいくつありましたか、と文学部の先生に聞かれても、めったに答えられません（笑）。

学問に余裕がなくなったと思います。何も戦前がよかったというわけではないのですが、学問の根本に哲学があるという了解がありました。あらゆる事柄の根源をきちんと押さえている哲学が真の学問と言えるもので、そこからさまざまに広がり、現実の社会にどう貢献するかという課題を持って学問が営まれていた。それが今や反対ですよね。一番見える形で成果があがったものが、最も優れたものであるという構造になっている。人文学は居場所を失いつつあるかもしれません。

学問の評価の難しさ

学問の評価の仕方がそうなっています。COE（文部科学省の研究拠点形成等補助金）や大きなプロジェクトでお金をもらってきても、５年間の期限のうち、２年目が終わる時点で、どこまでできましたか、何が見つかりましたか、どんな成果があがりましたかと聞かれ、そこで成果があまりあがっていないと、３年目以降の交付金を減らされます。５年間の計画を立てているのだからそれはおかしいと言うと、「最初から２年目に評価されることはわかっているので、それに合わせて考えてもらわないと困ります」と言われます。研究者は成果主義に合わせた研究をするようになってしまうのです。私もしょっちゅう、出さなくてもいい報告書を書いています（笑）。競争的資金を得ようと思うと、膨大な書類を書かなければいけませんし、大学の評価に関してもどれだけの書類を書いているかわかりません。それは紙代が無駄だというだけではなく、ものすごい労力の無駄があるわけです。何をしているのかなと思うときがあります。

私のような歴史研究者は、調査に行き、写真を撮ってきて、それを読んで何らかの形にすることができれば、本来はそんなにお金はいらないのですが、大学というのは組織的にいろんなお金がいるような構造でもあるんですね。

学問の評価は、自分も何回かやったのですが、自分がよくわかる分野については中味で評価ができます。わからない分野はどうするかというと、一つは数です。どういう雑誌にどれくらいのものを書いているかとか、中味の評価ではなくて外形的評価がかかるわけです。どういう学会で報告している、国際学会で報告している、それが自分から申し込んで報告したものなのか、招待講演なのかとか、どんな賞をもらったのかなど。このごろ賞が花盛りなのは、評価に関わるからですね。こういう評価だと、たくさん書いた人がとにかく評価されるという、悲しいことになってしまいます。長い時間をかけて１冊の本を物したような人の評価ができない。あるいは、その本だって出ない人もいます。こういう人は何もしていないという評価になってしまうのです。

人文学のあり方

―今年のノーベル賞の物理学賞・化学賞は、60～70年代の実績に対する授賞でした

物理学賞を受賞された益川敏英先生が「大してうれしくない」と仰っていました。自分なりのきちんとした研究ができ、その理論が実験によって実証されて満足だのに、今さらなんだということだったのだろうと思います。理学部の先生のなかには、基礎学の立場から先生の受賞を大変喜んでいる方々がいます。役に立つのか立たないのかわからないような成果を積み重ねていく基礎学の意味というのは、すぐにはわからない、簡単に評価だ何だと言うな、学問のあり方として５年成果主義というのは全くおかしいんだ、ということを明らかにしてくれたと。

歴史学についても、現代的な意味合いとか、何かもっともらしい説明をつけますが、半分以上は、ここがおもしろいと自分で思ったことを明らかにする営為です。それがどう役に立つのかを常に評価していくと、役に立たないとやらないということになります。それはやはりまずいでしょう。余裕みたいなものが周辺にないと、何も生まれてこないのではないかと思います。人文学というのは根源の部分でそういう学問だと思います。

（2008.11.12　於：京都大学藤井研究室）

徳川将軍家領知宛行制の研究

藤井譲治著　　**【思文閣史学叢書】**

徳川将軍家と大名との関係を成立させる領知制。本書はその領知制を基礎のところで成立させている領知朱印状そのものに注目し、徳川将軍家の領知宛行制の形成過程とその特質を明らかにする。また、各章末に領知朱印状の一覧表を、巻末に人名索引を付す。

第一章　家康期の領知宛行制
第二章　秀忠親政期の領知宛行制
第三章　秀忠大御所時代の領知宛行制
第四章　寛永十一年の領知朱印改め
第五章　寛文四年の領知朱印改め
補論Ⅰ　徳川将軍領知朱印状の古文書学的位置
補論Ⅱ　領知朱印改め以外の領知朱印状発給

▶A5判・412頁／定価7,875円　　ISBN978-4-7842-1431-0

笹原亮二編　口頭伝承と文字文化　2009年1月刊行予定

――文字の民俗学　声の歴史学――

柳田国男の時代から、民俗学における文献史料の扱いについては様々に議論がなされてきた。「口頭伝達を重視する民俗学、文献を重視する歴史学」という固定観念は崩れつつあるものの、明確な方法論は未だ打ち出されていない。フィールドワークによる生の資料と、文字で伝えられた資料、両者の扱い方に着目し、新たな研究方法について論じた意欲作。国立民族学博物館で行われた共同研究の成果。

「口頭伝承と文字文化」の位相
〈声〉からみた文字　（小池淳一）
　―日本列島における歴史と民俗の領域から―
民俗学と資料　（笹原亮二）

メディア
疫神と呪符　（大島建彦）
狐狸の書・神々の帳面―書記行為の民俗をめぐって―　（小池淳一）
奥会津の番匠巻物―系譜・由来・呪い歌―　（宮内貴久）
近世の易占書
　―士君子の易・市民の易と疾病・祟り・米相場―　（井上智勝）

地域社会
近世後期村役人にみる文字文化と口頭伝承
　―甲斐国巨摩郡河原部村平賀秀長『拾集録』『後続日記』を素材に―　（山本英二）
巻物のある風景―三匹獅子舞の上演に用いられる文書類の諸相―　（笹原亮二）
近世における地域の伝説と旅行者
　―「西国順礼略打道中記」を中心に―（青柳周一）

歴史
「浮鯛抄」をめぐる文字と口頭の伝承　（川島秀一）
近世に作られた職人由緒書の形成と展開
　―髪結職由緒書を例として―　（榎　美香）
楯無鎧をめぐる伝承の実体化　（西田かほる）
書きとめられた伝説―地誌・郷土誌と伝説集―　（久野俊彦）

「口頭伝承と文字文化」の周辺
『コーラン（クルアーン）』とイスラム共同体（ウンマ）
　―儀礼的音声言語の社会的機能に関する言語情報学的考察―　（西尾哲夫）
疫神の詫び證文の伝播分布に関する情報学的アプローチの試み
　―計量文献学及びGISを用いて―　（小田淳一）
「日本語の乱れ?!」考
　―現代の「若者言葉」の動態をめぐって―　（長崎伸仁）

▶A5判・432頁／定価7,350円　　ISBN978-4-7842-1447-1

ささはら・りょうじ…国立民族学博物館准教授.

鎌倉時代の権力と制度

上横手雅敬編

鎌倉時代史をリードしてきた編者と、次世代を担う関西の若手研究者により結成された鎌倉時代研究会の初の論集。「公家政権」「鎌倉幕府」「宗教と寺社」の3篇からなり、各分野のスペシャリストたちがそれぞれの視点から最新の研究成果を披露する。

▶A5判・358頁／定価6,825円　ISBN978-4-7842-1432-7

文学のなかの考古学

門田誠一著　　**〔佛教大学鷹陵文化叢書19〕**

文学と考古学との接点を求めることは、方法の異質性からこれまで行われてこなかった。本書は、考古学の分野を研究する著者が、小説や古典芸能などに描写された考古学的要素や、それらの背景となった歴史的あるいは文化的な背景について、考古学的に接近を試みる。

▶四六判・308頁／定価2,415円　ISBN978-4-7842-1430-3

翁の生成 ―渡来文化と中世の神々―

金賢旭著　　**12月中旬刊**

本書では、中世の翁信仰の生成過程を諸縁起や史料から読みとることで、そこに色濃く反映された韓半島からの渡来文化の姿を見いだし、さらに日本芸能のルーツである翁猿楽の成立についても、韓半島のシャーマニズム文化の影響を指摘する。日本の基層文化の形成を韓半島の文化との交渉の中から根本的に考え直すことにより、日本と韓半島との文化交流の、中世における新たな相貌を浮かび上がらせる意欲作。

第一章　古代の翁
塩土老翁／椎根津彦／伝承を語る翁

第二章　住吉信仰圏の翁
住吉明神の示現／翁としての住吉明神／住吉明神と赤山明神／金春禅竹の『明宿集』と住吉明神

第三章　中世の翁
地主神と翁／道祖神と翁

第四章　秦氏集団の信仰と翁の生成
秦氏にかかわる信仰と翁／渡来の翁神

第五章　韓半島の山岳信仰の流入
役小角と韓半島の山岳信仰／新羅の花郎文化と彦山修験

第六章　翁と童子―韓日比較文化論―
翁と童子の互換／脱解・処容伝説と秦河勝伝説の近似性

第七章　道教的呪術文化の受容と排除
幻術とそのルーツ／幻術の日本伝来と展開／排除される道教文化

▶A5判・240頁／定価5,250円　　ISBN978-4-7842-1411-2

蓬萊山と扶桑樹 日本文化の古層の探究

岡本健一著

「蓬萊山」と「扶桑樹」は古墳時代を解き明かすうえで二大キーワードであるはずが、なぜか古代史や考古学の分野では、長らく見過ごされてきた。20年前より「前方後円墳＝蓬萊山起源」説を提唱してきた、元新聞記者でもある著者の研究集大成。

▶A5判・442頁／定価5,775円　ISBN978-4-7842-1400-6

中世蹴鞠史の研究 鞠会を中心に

稲垣弘明著

蹴鞠は、前近代の日本にあっては、今日一般に想像されるよりも、比較的広範に行われていた芸能文化・スポーツであった。本書は、これまであまり顧みられることがなかった、室町期以降の蹴鞠会の挙行形態の歴史を体系的に論じた一書。

▶A5判・300頁／定価5,775円　ISBN978-4-7842-1390-0

王権と神祇

今谷明編

実証的研究の蓄積が少ない天皇制や大嘗祭、また権門体制論・顕密体制論によって規制されがちな中世神祇史について実態面の研究を積み重ね、さらに中世日本紀や神道書の考証も重ね合わせることにより、王権と宗教に関する新たな見取り図を描き出すことを目指した意欲的な論集。

▶A5判・348頁／定価6,825円　ISBN4-7842-1110-1

宮古島狩俣の神歌 その継承と創成

内田順子著

沖縄県宮古島狩俣集落における伝統的祭祀歌謡（神歌）の永年のフィールドワークをもとに、歌われる歌の諸表現が生み出され、それが歌唱者や社会によって意味づけられていく過程を具体的に分析し、歌詞のみによらない新たな歌謡分析の方法を提示した意欲的な一書。

▶A5判・300頁／定価6,930円　ISBN4-7842-1036-9

棟札の研究

水藤真著

寺院の殿堂や神社などの上棟式・大修理・屋根替のさいに、建物名・願主・工匠名・上棟年月日などを記して棟木に打ち付けた板を棟札という。本書は、国立歴史民俗博物館が行った棟札調査報告書をもとに、定義・概要・書式の考察から棟札の意味・価値など多方面から検討を加え、研究の整理と方向性を示した一書。

▶A5判・230頁／定価3,990円　ISBN4-7842-1243-4

散所・声聞師・舞々の研究

世界人権問題研究センター編

9年間にわたってとりくまれた共同研究の成果。散所の人々が携わった芸能あるいは陰陽道などとのかかわりを含めて、文献・絵画・地図の綿密な分析をこころみ、洛中・山城国・近江国における実態を浮きぼりにする。

▶A5判・590頁／定価8,610円　ISBN4-7842-1219-1

陰陽道の神々

斎藤英喜著　〔佛教大学鷹陵文化叢書17〕

疫鬼や式神、泰山府君、牛頭天王、八王子、金神、盤牛王、そして式王子、呪詛神たち……。彼らは近代社会が封印し、消去した「陰陽道」の神々である。本書は、知られざる陰陽道の神々の来歴と素顔を、最新の研究成果にもとづき、平易に説きながら、もうひとつの「日本」の神々の世界を探求していく。掲載写真・図版多数。

▶四六判・292頁／定価2,415円　ISBN978-4-7842-1366-5

日中親族構造の比較研究

官文娜著　〔思文閣史学叢書〕

近代以降、日本は西洋異文化（近代文化）との融合を果たしたが、中国はそれが不可能であった。なぜそのような状況がうまれたのか。異文化の特質解明という視点から日本と中国の血縁親族構造の比較を検証してその原因を解明した、著者初の論文集。

▶A5判・440頁／定価7,560円　ISBN4-7842-1241-8

幸田露伴の世界

井波律子・井上章一編

【1月刊】

幸田露伴は、明治～昭和を通じ、小説家・劇作家・随筆家などとして多彩な才能を発揮し、すぐれた作品を発表し続けた。しかし、従来、全面的な露伴研究がなされてきたとは言いがたい。今回さまざまな分野の専門家が、小説や評論など文学面はもろんのこと、都市・遊技・旅行・自然観察・人生論などの著作を通じて多用な角度から露伴にアプローチを試みる。

◆露伴を語る◆

幸田露伴――その生涯と中国文学　国際日本文化研究センター　井波　律子
露伴と川　ドイツ文学者　池内　紀
露伴の都市論を読む　国際日本文化研究センター　白幡洋三郎
『澁澤榮一傳』をめぐって　国際日本文化研究センター　猪木　武徳
露伴の耳　国際日本文化研究センター　細川　周平
露伴と植村正久――露伴のキリスト教観　国際日本文化研究センター研究員　平松　隆円
「五重塔」という「プロジェクトX」――前進座『五重塔』と日本の高度成長　同志社大学　佐伯　順子
『平家』と京都に背をむけて　国際日本文化研究センター　井上　章一
『努力論』とその時代　国際日本文化研究センター　鈴木　貞美
露伴の連句評釈　チュラーロンコーン大学　岩井　茂樹
「文人」としての露伴の成立とその背景　国際日本文化研究センター　劉　建輝

◆露伴を読む◆

『風流佛』を読む　鈴木　貞美
『ひげ男』を読む――明治の「武士道」と戦時体制　佐伯　順子
幸田露伴略年譜と系図

▶A5判・320頁／定価5,250円　ISBN978-4-7842-1444-0

関西モダニズム再考

竹村民郎・鈴木貞美編

国際日本文化研究センター共同研究「日本のモダニズム―関西を中心にした学際的研究」の報告書。20世紀初頭の日本では、「東京都市文化圏」と「大阪・京都・神戸都市文化圏」という全く異質の「都市文化圏」の競争的共存が実現した。関西都市文化圏の経済的・社会的・文化的先進性や、地域に根ざした自立的なモダニティの上に花開いた関西モダニズムの諸相をとりあげた14篇。

▶A5判・604頁／定価8,925円　ISBN978-4-7842-1379-5

武士の精神とその歩み（エトス）

武士道の社会思想史的考察

アレキサンダー・ベネット著　【1月刊】

武家政権の誕生から、明治維新に伴う身分制度の廃止に至るまでの、武士文化の発展と変遷の過程を考察。各時代における武士の精神を精査し、武士の気風や動機などが、どのように進展していったかを明らかにする。

【内容目次】

第1章　武士エトスの系譜／**第2章**　象徴の体系／**第3章**　武士の「気風」と「動機」／**第4章**　武士の一般的な秩序／**第5章**　武術を通じての武士の宗教的な体験／**第6章**　武士身分の解体と武士文化の活用／**第7章**　国民武士道の創造―「サムライ魂」の再発見

▶A5判・300頁／定価5,040円　ISBN978-4-7842-1426-6

百人一首万華鏡

白幡洋三郎編

百人一首を、歌の解釈はもとより、歴史、選び方、カルタ、翻訳など、さまざまな角度から紹介し、その文明的広がりをさぐる。

▶B5判・178頁／定価2,520円　ISBN4-7842-1223-X

逆欠如の日本生活文化

日本にあるものは世界にあるか

園田英弘編著

「日本にあるものは世界にあるか」という、出発点を日本においた新たな方法論に基づく文化比較。

▶A5判・404頁／定価3,990円　ISBN4-7842-1248-5

●私のノートから●

私の日本研究

金　賢旭

韓国での大学院生時代、偶然『謡曲大観』を目にし、中世時代から戯曲があることに興味を持ち、好奇心がわいてきたので、さっそく能のビデオを手に入れた。それまでの私が見慣れていたのは、韓国伝統芸能である農楽やサムルノリのような躍動的な踊りであった。ところがそのビデオからは発散されるべきものが抑えられているような能の不思議な身体が感じられた。その風変わりな世界にひかれたのが、私が能を研究しようと思ったきっかけである。

それから、能を研究テーマにして修士論文を書くことにしたが、外国での能研究は難しく、論文はなかなか進まなかった。資料もあまり読めないうえ、実際の舞台も観ることができない状況で論文を書きながら、日本へ留学して本格的に能の研究をしたいという意志を固めた。日本に来て最初に「道成寺」という能をみたが、息が弾むような舞台を目にして、きっと楽しい世界に足を踏み入れたのだと確信し、安心と期待で能からの帰り道うきうきとした気分になったことを、一五年あまりすぎた今でもはっきりと覚えている。

私の日本研究は、最も日本的なものと考えられている能についての研究であるが、その研究は、古代から中世にかけて大陸の文化を取り入れることで成り立っていた日本文化のダイナミズムを研究することであり、アジアのなかの日本文化研究となることは、この時まだわからなかった。

中世劇文学の代表であり、現在も生きる演劇として存在する能は、それまでの日本語の世界、日本古典文学の世界の集積として、そこにすべてが流れ込む文芸ダムのようなものとして、一四世紀から一五世紀にかけて成立した。『古事記』『日本書紀』などの神話世界、『源氏物語』や『伊勢物語』など物語の世界、それら先行の古典文学の世界を短編劇として中世に仕立て直したものが能であるといえる。また能は、江戸時代以降、今度は日本古典文学の正典（カノン）の位置を獲得し、後世に大きな影響を与えた。

このような能の世界でも、私は、特にその成立について研究してきた。能の起源である翁猿楽の「翁」に関して、渡来性という新しい視角から取り組んでいる。能のルーツである翁猿楽に結実するべく、一二世紀頃から頻繁に現れるようになる翁神とこれをめぐる翁信仰について、韓半島からの渡来文化との関わりで捉えるという比較文化論的考察は今まで行われたことがないと言ってもいいだろう。

渡来文化と翁の関係について、渡来氏である秦氏の氏族信仰とオーバーラップする形で日本の山岳信仰を捉えながら、八幡神・稲荷神・松尾神・走湯山権現等々の信仰圏に見られる翁の現れを探ると、意外とそれが新羅時代の「花郎文化」にさかのぼる韓半島の山岳信仰に類似していることに気づく。ことに八幡神・稲荷神・走湯山権現にみられる翁と童の互換構造には、翁猿楽における翁と千歳、父の尉と延命冠者という翁童ペアーの原型が存在すると考えられるので興味深い。

古代新羅時代のシャーマニスティックな山岳宗教であり稚児文化でもある花郎文化は、八幡神などにみられる翁童信仰との共通性が強い。この韓半島の山岳信仰が日本に流入し、彦山修験に典型的に見られるように、日本の山岳信仰に決定的な影響を及ぼし、そのような土壌から、翁と童が互換しつつ神のかたどりとなって現れ始め、それが集約されたものとして翁猿楽が生まれたのだろう。さらに、世阿弥や金春禅竹が書き残した秦河勝伝承もその一つの結節点として捉えられるのではないだろうか。

渡来性という視点から、翁神の多出現象をみることで、翁信仰の本質的側面がはっきりと見えてくるのである。

きむ・ひょんうく

1968年生．東京大学大学院総合文化研究科（表象文化論）博士課程修了．博士（学術）．現在，韓国外国語大学・檀国大学非常勤講師．

主要論文に「翁舞と処容舞――日韓呪術歌舞の共通性」（岩波書店『文学』，10巻２号），「翁信仰と渡来文化」（學燈社『國文學』，50巻７号）など．

（5頁に図書案内）

東京の医史学会から富士川游氏が杏林温故会の創立を祝して、医史学の意義を次のように語っている。

「医史学はもとより科学史として医学における思想の発達を史学的に検討するものであるが、しかも文化史としてその研究の範囲はこれに限るものではない。医学を応用する実際的方面の医術、また医術を実践する医人の地位などに関しても史学的に研究せねばならぬ。その外、医術の対象たる疾病そのものについても種々の方面から検討をなさねばならぬ。ことに斯学の研究に従事したる先賢の真率なる態度及び其の道のために尽くしたる犠牲的の精神は後身のものとしてこれを知るときは自ら奮起してその業績を継がねばならぬと激励の心を起こすことによって倫理学的の価値多大である。」

医史学への評価が必ずしも高くなく、有閑な仕事と見られがちな世情に対して、医史学の有用をたえず啓蒙してきた富士川游氏にとって杏林温故会の設立は大きな喜びであっただろう。続けて氏は「京阪は医学の早くから進んだところである。幾多の先賢の事跡に関する資料など医史学の研究の根本資料が少なからず有るに違いない。それらが杏林温故会によって探し出されて、世に公にされることは、医史学会にとって裨益する所は多大である」と杏林温故会に期待を寄せている。

杏林温故会はその期待に反することなく、例会ごとに貴重な発表や、珍しい資料の供覧、座談が行われ、それらを機関誌『医譚』に掲載した。それから半世紀以上たった今、『医譚』は得難い資料の宝庫となっている。今回、それが復刊されたことは、先人たちの思いを現代に復活させることでもあり、それを享受できることの喜びに堪えない。多くの至難を超えて出版に踏み切られた医史学会関西支部の幹部の方々に敬意を表すものである。

（日本医史学会理事長）

『医譚　第1号～第17号』序文より

醫譚（いたん）

昭和13年（第１号）～昭和19年（第17号）
復刻合本全３巻

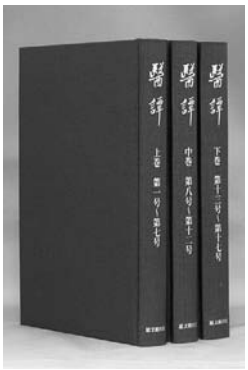
日本医史学会関西支部（杏林温故会）編　最新刊

杏林温故会（現日本医史学会関西支部）の機関紙として創刊された『医譚』は、昭和13年２月に創刊され、昭和19年６月まで17号、そして戦後、昭和27年に復刊され、今日復刊87号を数える。

今回、入手困難で、待望されている医学史、科学史研究の貴重な古典として、昭和19年刊行の17号までを限定出版。

上巻：創刊号（昭和13年２月）～第７号（昭和15年12月）
中巻：第８号（昭和16年３月）～第12号（昭和17年４月）
下巻：第13号（昭和17年８月）～第17号（昭和19年６月）

▶A5判・全３巻セット定価25,200円　ISBN978-4-7842-1424-2



『医譚』復刊にのぞんで

酒井　シヅ

このたび、関西医史学会から戦前に発刊された『医譚』が復刻されることになった。『医譚』は昭和十三年から昭和十九年までに出版されたもので、多くの医史学を学ぶ者にとって長らく幻の雑誌であった。それだけにこの復刻に対する期待は大きい。

『医譚』は杏林温故会の機関誌である。杏林温故会とは医史学会関西支部の前身で、昭和十三年に大阪在住の億川攝三氏らの主唱によって創立された会である。会則によると、本会は「医史に関する知識の啓発並びに趣味の交流を図ることを目的とする」とある。大阪大学にエルメレンスの記念碑が移転した機会に集まった医史同好の者が、曲直瀬道三、後藤艮山、山脇東洋など日本の主流をなした多数の医人を出した関西にも、東京の医史学会に続くものを作ろうという機運のなかで生まれたのであった。会員は主として関西圏に住む、錚々たるメンバーであった。その最右翼に緒方洪庵の後嗣緒方銈次郎氏がおられた。発起人の億川攝三、中野操、大矢全節の三氏はいずれも関西の皮膚科学会の先鋭で、息のあった同志であった。

『医譚』第一号の編集後記に中野操氏は、この会の特色を「単に医史学に関する知識の啓発といったことだけを趣旨としないで、趣味の交換ということも付け加えた。多くの会員の中には一芸一能に秀でた人があるだろう。それからまた人には誰しも本能的に蒐集癖というものがあるものだ。それらの一芸一能についてあるいは蒐集の諸相について聴くことは、お互いの人生に深みと潤いと円満無碍とをいろづけるものに他ならぬ。そこで、われわれはよびかけたい。象牙の塔からでて、この結社に加盟して欲しいと……」と記す。その趣旨は現在の医史学会関西支部に脈々と流れている。

また、創刊号の巻頭の億川攝三氏の杏林温故会創立の趣旨を読むと、明治以後、圧倒的に優位になった西洋の壁を越えて日本の医学の淵源を知るために医史学の研究を広め、本会の発展に尽くそうとした気概を感じる。

東大医学部初代綜理池田謙斎

池田文書の研究（上・下）

池田文書研究会編

池田謙斎の子孫にあたる池田允彦家に保存されていた約4000通の文書類を上下２分冊で収録。医学史のみならず政治史や宮廷史に寄与する資料。

▶上巻A5判・350頁／定価7,140円　ISBN4-7842-1284-1
　下巻A5判・406頁／定価8,190円　ISBN978-4-7842-1337-5

洪庵・適塾の研究

梅溪昇著

▶A5判・540頁／定価12,600円　ISBN4-7842-0766-X

続 洪庵・適塾の研究

梅溪昇著

▶A5判・722頁／定価9,975円　ISBN978-4-7842-1388-7

富士川游著作集　【全10巻】

富士川英郎編

日本医史学の開拓者（1865-1940）の業績を集大成。
①東洋医学・医学分科史 ②医術と医業 ③医者の風俗・迷信 ④疾病史・病志・療法の歴史 ⑤民間薬 ⑥医学論理学・典籍 ⑦伝記(一) ⑧伝記(二)・西学東漸 ⑨性慾の科学・人生論 ⑩医史料・雑纂　〔各巻分売も承ります〕

▶A5判・平均500頁／揃定価63,000円

呉秀三著作集　【全２巻】

岡田靖雄編

日本神経学会を創立し、わが国の近代精神神経学を開拓すると共に、日本医史学会の初代理事長を務め、数多くの研究を残した呉博士の業績をまとめる。

▶A5判・平均450頁／揃定価30,450円
　①医史学篇（23篇）　定価14,700円　ISBN4-7842-0074-6
　②精神医学篇（31篇）　定価15,750円　ISBN4-7842-0075-4

史料探訪 35

大樹寺の中世文書

岡崎市美術博物館
堀江登志実

岡崎市美術博物館は、市内に所在する貴重な文化財、歴史資料などを保管する施設として、また、文化財・美術品を展示する施設として平成８年（1996）７月にオープンした。その建設の契機となったのが、昭和63年（1988）の上宮寺の火災である。同寺は三河真宗の中核寺院で、多くの当地真宗に関する文化財と歴史資料を所蔵していたが、それらのほとんどを焼失した。これを機に市では、市内に存する貴重な文化財を守るための文化財収蔵庫の建設が意図され、現在の当館実現への運びとなる。

当館では市内に点在する文化財の保管を図るために、寄託制度を設けている。資料を保存環境の良い収蔵庫で預かる制度である。寄託を受けた資料については、害虫とカビから文化財を守るための燻蒸を行い収蔵庫に保管するとともに、適宜、展示室で公開展示している。

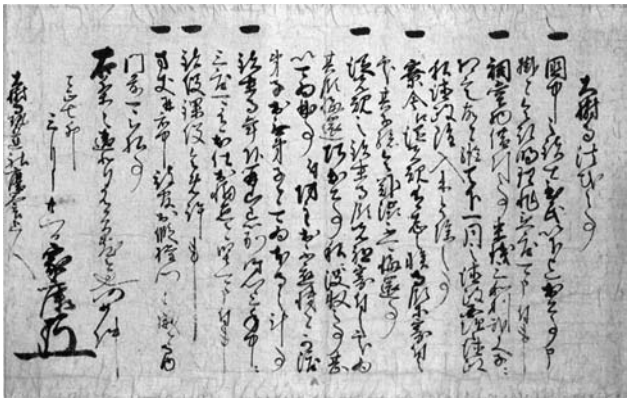
現在、この制度により寄託品を受けている市内寺社には、大樹寺、信光明寺、随念寺、浄珠院・法蔵寺の浄土宗寺院、専福寺・願照寺の浄土真宗寺院、高隆寺・甲山寺の天台宗寺院、萬松寺の曹洞宗寺院、滝山東照宮がある。傾向としては松平氏ゆかりの浄土宗寺院が多い。このことは岡崎市の歴史的背景とも関係している。岡崎は徳川家康が生まれて天下統一への礎を築いた地である。また、家康の先祖松平氏が八代にわたり支配を固めてきた地でもある。そのために、松平氏と家康が建立した寺院が多くある。

これらの寄託を受けている寺院資料のなかからここでは大樹寺に伝わる資料を紹介しよう。大樹寺は松平・徳川氏菩提所であり、松平氏四代親忠が勢誉上人に帰依して建立した寺院である。現在、当館で寄託を受けているのは中世文書・近世文書（一部近代文書を含む）約800点、工芸品類約60点、絵画類約60点である。

このうち中世文書は愛知県指定文化財となっている。大樹寺の中世文書は松平氏の歴史、さらには三河中世史を明らかにする上で欠かせない史料群で、新行紀一著『一向一揆の基礎構造』（吉川弘文館、1989年）の研究、『新編岡崎市史』中世（1989年）にも三河中世史像の解明において多分に活用されている。

大樹寺の中世文書は江戸前期に巻子仕立てされている。大樹寺の中世文書が今日まで状態よく伝えられることになったのはこの巻子仕立てによるものである。竪紙、折紙など大きさのまちまちなものも貼り付けて巻子表装されているが、内容は巻子ごとに分類されている。その分類を示した題箋とその内容・点数を示そう。

御判物幷御朱印―家康判物・朱印状　５点
御先祖御判形―松平親忠・長親・信忠・清康・広忠判物・寄進状　18点
御一門判形―松平一門寄進状、連判状等　17点
義元判形幷雪斎泰能泰朝判―今川氏発給文書　８点
寄附状　天之部―諸氏寄進状・売券　明応元年～天文12年　52点
寄附状　地之部―同前、天文13年～16年　45点
寄附状　玄之部―同前、年未詳書状　30点
御先祖幷観智国師御書状　黄之部―松平長親ほか増上寺存応源誉の書状　７点
雑書御寄附状―松平正綱・大仏師康以書状など　12点
宝物雑書寄附状―尾張藩徳川義直家中との関連文書　３点



◀徳川家康判物　天正７年３月21日
（大樹寺蔵・岡崎市美術博物館寄託）

三河の小領主から天下人時代のものまで家康の大樹寺への法度は５回にわたる。
本状は15世靡誉宛で国中諸士からの訴訟裁決、祠堂米銭の徳政免除などを定めている。

「御判物幷御朱印」は家康の判物・朱印状をまとめたものである。５点が年代を追って表装されているが、そのうち４点は大樹寺に宛てて出されたもので、同寺の寺領安堵、諸役免許、祠堂物の貸付と利子、徳政免除などを規定した法度である。最初のものは永禄６年（1563）閏12月に出されたもので、２点目は同12年６月、３点目は天正７年（1579）３月（写真）、４点目は天正９年４月のものである。これらの法度は、その時々の寺の置かれている状況を反映していることは言うまでもないが、家康が天下人として成長してゆく各段階の地位・権力を示すものである。たとえば、３点目の判物には祠堂米銭の貸付利子は３割２分と高率が設定され、天下一同の徳政・国次（くになみ）の徳政さらに私徳政の免除を規定しているが、これには家康の権力者としての力が担保されていないと文書としての効力がない。天正７年の段階で、家康の支配権が完全に確立している国は三河のみで、遠州・駿河では依然として武田氏との争いが続いている。

「御先祖御判形」は、松平氏当主の発給文書をまとめたものである。

「御一門判形」は松平惣領家である安城松平以外の岡崎松平の光重、藤井松平の利長、三木松平の信孝などの発給文書を収めたものである。内容は田地寄進状、年貢寄進状などである。

「義元判形幷雪斎泰能泰朝判」は、今川義元ならびにその家臣である太原雪斎、朝比奈泰朝の発給文書をまとめたものである。天文18年（1549）に家康の父広忠が殺されると、今川義元は三河を属国化し、大樹寺も義元によって寺領の安堵状が出される。本巻子には、義元の寺領安堵、禁制、守護不入の規定など８点が含まれている。

寄附状の巻子は、大樹寺への田地寄進状などをまとめたものであるが、天・地の部には巻末に元禄８年（1695）10月７日付で大樹寺28世曄蓮社忍誉如風円碩息阿による修復銘がある。巻子に仕立てた時のものであろう。

以上、中世文書について述べてきたが、これらの多くは『新編岡崎市史』古代・中世史料編（1983年）に翻刻されているので同書を参照されたい。

江戸時代の大樹寺は徳川将軍家の菩提寺・位牌所として存在する。寺院修復や位牌安置など幕府との関係を物語る文書が多くある。これらの近世文書については活字化されていないが、その概要を知るには愛知県教育委員会刊行『大樹寺歴史資料目録』（1982年）が参考になる。

当館では大樹寺の中世・近世文書をフィルム化・デジタル化している。多くの方に研究等に利用していただきたいと思う。

—MEMO—

岡崎市美術博物館

〒444−0002　岡崎市高隆寺町峠１　岡崎中央総合公園内
TEL（0564）28−5000　FAX（0564）28−5005
http://www.city.okazaki.aichi.jp/museum/bihaku/top.html

源氏物語　千年のかがやき

国文学研究資料館編

新出の国文学研究資料館蔵『源氏物語団扇画帖』全54枚をカラーで掲載し、詳細な解説を付す。あわせて図様が近似する他の源氏絵についても参考資料として多数掲載。描く・書き写す・鑑賞するという３つの観点から、源氏物語が千年間どのように享受されてきたのか、豊富なカラー図版で紹介する。

『源氏物語団扇画帖』(「玉鬘」)
(国文学研究資料館蔵)

【内容目次】

第１部　描かれた名場面
国文学研究資料館蔵『源氏物語団扇画帖』全54図／出光美術館蔵・岩佐勝友画『源氏物語図屏風』ほか源氏絵５点

第２部　どのように書写されたか
国立歴史民俗博物館蔵『中山本 源氏物語』／陽明文庫蔵『源氏物語』／古代学協会蔵『大島本 源氏物語』ほか源氏物語の写本など14点

第３部　どのように鑑賞されたか
国文学研究資料館蔵『光源氏系図』／鞍馬寺蔵『与謝野晶子新新訳源氏物語自筆原稿』ほか源氏物語を題材にした作品20点

第４部　世界文学としての『源氏物語』
海外で発刊されている翻訳書など約50点

▶A4判・168頁・オールカラー／定価1,995円　ISBN978-4-7842-1437-2

尾陽（びよう）　徳川美術館論集

徳川美術館編

従来『金鯱叢書』の一部として収録されていた美術関係の部分に新収蔵品紹介や修理報告などを収め別本で刊行。

▶第１号 B5判・120頁／定価3,150円 ISBN4-7842-1222-1
第２号 B5判・232頁／定価3,150円 ISBN4-7842-1240-X
第３号 B5判・184頁／定価3,150円 ISBN4-7842-1331-7
第４号 B5判・212頁／定価3,150円 ISBN978-4-7842-1406-8

平成新修古筆資料集

田中登編

中世期書写古筆切の収集・整理と体系化をめざし、編者蒐集の100余点について写真と詳細な解説によって紹介。

▶第１集 A5判・260頁／定価2,730円 ISBN4-7842-1035-0
第２集 A5判・234頁／定価2,625円 ISBN4-7842-1132-2
第３集 A5判・234頁／定価2,625円 ISBN4-7842-1277-9
第４集 A5判・236頁／定価2,625円 ISBN978-4-7842-1427-3

中世近世和歌文芸論集　龍谷叢書15

日下幸男編　最新刊

関西の若手研究者を中心として活動する近世和歌輪読会の初の論文集。現在の中世・近世の和歌研究に一石を投じる意欲作17篇。

◎内容目次◎

【中 世 篇】
建仁元年三月新宮撰歌合考（安井 重雄）／風雅和歌集における烏（阿尾 あすか）／東常縁の歌学における常光院流の継承（長谷川 千尋）／中世から近世にかけての制詞の変容について（長谷川 薫）

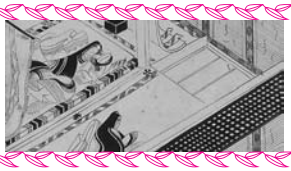
【近 世 篇】
『新一人三臣和歌』攷（大谷俊太）／『小鳥うた合』をめぐって（岡本 聡）／正保版本歌仙家集と冷泉家私家集（藤本 孝一）／古今和歌集後水尾院御抄の成立（海野 圭介）／『百人一首』の古注と新注（小高 道子）／東大寺僧成慶年譜稿（日下 幸男）／歌学と実作と（西田 正宏）／点者としての水田長隣（神作 研一）／陽明文庫所蔵近衛家久添削田安宗武歌について（盛田 帝子）／所謂「明和十五番狂歌合」をめぐって（久保田 啓一）／松浦寛舟の和歌指導と平井冬秀の享受（中川 豊）／小沢蘆庵の和歌指南（加藤 弓枝）／南溟勧化本の和歌（万波 寿子）

くさか・ゆきお…1949年大阪府生．大阪府立大学大学院博士後期課程修了．博士(学術)．現在，龍谷大学文学部教授．

▶A5判・420頁／定価6,300円　ISBN978-4-7842-1446-4

源氏物語千年紀・古典再生に向けて〈第六回〉

写本から版本へ



藤本孝一
（龍谷大学客員教授）

本年は源氏物語成立千年紀が開催され、筆者もその渦中にいる。喧噪の中で、あたり前だと思っていた事が、考えると不思議な事に気付いた。源氏物語が写本から版本になり、さらに印刷本として現代まで愛読されている。しかし、なぜ江戸時代に版本が大量に出版されたかである。

版本の遺品は、奈良時代の『百万塔陀羅尼』に始まり、平安時代の巻子装に仏典を摺った春日版。さらに、室町時代の禅宗の五山版などの仏書が知られる。しかし、文学書の版本は、慶長年間に始まる近世の特徴といっていい。なぜ爆発的に出版されたかの問題を検討したい。

歴史から見ると、応仁の乱から百年間続いていた戦国時代を、織田信長・豊臣秀吉が天下統一したおかげで、大いに生産力が上がった。さらに、東南アジアとの朱印船貿易などにより、高い技術力が輸入された結果が、富の蓄積と拡大となる。その結果、文字を勉強する余裕が生まれるとともに教育の普及があり、版本を読むための識字率が増大し、読者層が増加したことが根本にある。

豊臣秀吉は、日本統一の次に、中国の明国（一三六八～一六四四）を制覇する野望に燃えた。まず、明国まで攻め登ろうと朝鮮半島へ出兵した。だが、豊臣秀吉の夢は、逝去と共にあっという間に潰えさった。この折、朝鮮文化が日本に大量に入ってきた。銅活字印刷もその一つであった。活字とは、一字一個を組み合わせるもので、現在の植字活字版である。この時代のものを「古活字本」と言って区別し、一枚の板に文字を彫って摺ったものを整版と呼んでいる。

また、明国からも大量の版本や活字技術が輸入された。さらに、スペイン・ポルトガルの南蛮人により、キリスト教が将来されるに伴い、グーテンベルグの印刷技術が入ってきて、伊香保物語や平家物語の文学書が印刷され、キリシタン版と呼ばれている。

このような社会状況の中で文学作品が出版されはじめた。最初の文学書は嵯峨本『伊勢物語』である。嵯峨本とは、本阿弥光悦（一五五八～一六三七）が出版した古活字本である。しかし、多くは一字一個の活字によるが、日本の草書体の二字や三字を彫った活字も使用する、日本化した活字本であった。伝嵯峨本といわれる源氏物語も摺られている。

活字版は漢字を主体としているため、仏書は後世まで出版されているが、連綿体の文学作品は古活字が途絶えた後に、整版の源氏物語が出版された。承応三年（一六五四）本である。以来、世界に類を見ないような整版による版本が続々と出版された。

この大きな要因は、粘葉装から明朝綴への装訂の変化であると想定している。生産や識字率の増大は当然であるが、技術面での変革も大きな一因であった。それまでの版本は、糊附による巻子装や粘葉装である。袋装で四つ目の線装綴を明朝綴と呼ぶように、明国で発明されたとする装訂方法が普及した。

各紙に糊を附けて継げるのは、汚れやすく、乾くまで時間もかかり、きれいに仕上げるには大変難しい技術がいる。ところが、明朝綴をはじめとする線装綴は、糸を通した針一本で綺麗に綴じられる。粘葉装は摺った紙を内側に折り、袋装線装綴は外側に折るかの違いだけで、外側で折る方が早く簡単で、美しく誰にでもできる。

整版を線装綴の袋装にする方法により、版本の出版が流布し、江戸時代文化の花を咲かせたと想定している。

奈良国立博物館 編

正倉院宝物に学ぶ

日々、宝物の保存と修理に携わる宮内庁正倉院事務所の研究者をはじめ、美術史・仏教・建築・歴史の第一線の研究者による３回のシンポジウムの成果。

【内容目次】

（執筆者の肩書は2008年８月31日現在）

はじめに ……湯山賢一（奈良国立博物館長）

第Ⅰ部　正倉院研究の現在　　正倉院学術シンポジウム2005

正倉院文書研究の来し方 ……北　啓太（宮内庁京都事務所長）
北倉の楽器 ……内藤　栄（奈良国立博物館学芸部長補佐・工芸考古室長）
黄銅合子の模造で得た新知見―正倉院宝物模造の意義― ……西川明彦（宮内庁正倉院事務所保存課整理室長）
正倉院事務所における近年の調査 ……杉本一樹（宮内庁正倉院事務所長）
『東大寺宝物録』（弘化四年）に見る正倉院宝物について ……森本公誠（東大寺長老）

第Ⅱ部　正倉院宝物と８世紀東アジアの文化　　正倉院学術シンポジウム2006

正倉院宝物と大仏開眼会―宝庫の成立に関連して―
……米田雄介（神戸女子大学教授、元宮内庁正倉院事務所長）
正倉院宝物からみた唐代の中日文化交流 ……晏　新志（中国・漢陽陵博物館副館長）
統一新羅と奈良時代の仏像 ……金　理那（韓国・弘益大学校教授、ICOMOS韓国委員会委員長）
聖武天皇―その出家への道― ……森本公誠
正倉院宝物と鑑真和上 ……三宅久雄（奈良大学教授、元宮内庁正倉院事務所長）
『国家珍宝帳』について ……杉本一樹
奈良国立博物館蔵「刺繍釈迦説法図」の主題と図像 ……稲本泰生（奈良国立博物館学芸部企画室長）
菩提僊那と古密教の美術 ……谷口耕生（奈良国立博物館学芸部研究員）

第Ⅲ部　守る・伝える　正倉院宝物　　正倉院学術シンポジウム2007

漆工品の修理と模造 ……北村昭斎（重要無形文化財「螺鈿」保持者、漆工芸家）
正倉院宝物を守ってきた人々 ……木村法光（奈良国立博物館客員研究員、元宮内庁正倉院事務所保存課長）
正倉院の建築と機能 ……清水真一（東京文化財研究所文化遺産国際協力センター長）
近年の染織品の整理・修理―北倉四十二 八角鏡 第一号付属 八角櫃の内張りの修理例から―
……田中陽子（宮内庁正倉院事務所保存課整理室技官）
正倉院宝物の科学的調査の成果 ……成瀬正和（宮内庁正倉院事務所保存課長）
あとがき ……西山　厚（奈良国立博物館学芸部長）
〔コラム〕４本 ……戸田　聡（読売新聞大阪本社編集局記者）
正倉院学術シンポジウム開催一覧／正倉院年表／口絵解説／用語解説

▶四六判・口絵8頁・本文430頁／定価3,150円

ISBN978-4-7842-1439-6

正倉院展60回のあゆみ

奈良国立博物館 編集・発行／思文閣出版 発売

第１回から60回の歩みを、各回の主な出陳宝物の図版や特徴・エピソード・出陳一覧などのデータと、各分野の研究者によるエッセイでたどり、毎回の図録に付されている用語解説を整理・集大成して巻末に付す。

▶A4判・286頁／定価3,150円

ISBN978-4-7842-1440-2

塼仏（せんぶつ）の来た道　白鳳期仏教受容の様相

後藤宗俊著　　最新刊

塼仏は粘土でつくられた小さな仏像である。本書は、インドから長安・飛鳥を経て大分県宇佐の虚空蔵寺にいたる「塼仏の来た道」をたどり、そこにこめられた祈りの諸相を明らかにする。あわせてその途上に浮かび上がる玄奘・道昭・法蓮などの偉大な僧の信仰と人間像に迫る。

▶A5判・320頁／定価5,985円

ISBN978-4-7842-1433-4

最新刊

近代工芸運動とデザイン史

デザイン史フォーラム編・藤田治彦責任編集

「近代工芸運動」という視点を導入することにより、「近代デザイン史」という視点では抜け落ちている、各国における芸術分野での歴史・重要な動向を様々な点から解き明かす。

序文　近代工芸とモダンデザイン（藤田治彦）

第1部　ヨーロッパの近代工芸運動

ラファエル前派からアーツ・アンド・クラフツ運動へ（藤田）／ジョン・ラスキンとセント・ジョージのギルド（川端康雄）／ケルト・デザインと二十世紀の「有機」思想―ヴォリンガー、ブルトン、ライト―（鶴岡真弓）／二十世紀初頭イギリスの芸術家コロニー―ブルームズベリー・グループ―（要真理子）／ベルギーの近代工芸運動（高木陽子）／フランス近代工芸のあけぼの　二つの振興運動―産業芸術と装飾芸術―（西村美香）／フランスの近代装飾・工芸運動―アール・ヌーヴォーを中心に―（今井美樹）／フランスの近代装飾・工芸運動―アール・デコとその周辺―（川上比奈子）／イタリアと近代工芸運動（末永航）／スイス・ハイマートヴェルクに見るスイスの工芸運動（川北健雄）／ドイツの工芸博物館について：その設立と展開―ベルリンを中心に―（池田祐子）／ドイツの近代工芸運動―「工房」の集合離散からドイツ工作連盟の結成へ―（針貝綾）／ヘルマン・ムテジウスとドイツの工芸学校改革―プロイセン産業局の創設とその施策をめぐって―（田所辰之助）／オーストリアの近代工芸運動（天貝義教）／ハンガリーのアーツ・アンド・クラフツ運動―ゲデレー工房―（井口壽乃）／北欧における近代工芸運動―フィスカルス・ヴィレッジを中心に―（塚田耕一）

第2部　欧米の近代工芸運動とアジア

アーツ・アンド・クラフツ、フランク・ロイド・ライト、日本の近代工芸（藤田）／伝統と科学の狭間で―イギリスでの松林靄之助の活動を中心に―（前崎信也）／柳宗悦と山本鼎（藤田）／民芸運動の実践―吉田璋也の活動を例に―（猪谷聡）／「韓国」陶磁の二十世紀と柳宗悦―植民地から解放後へ―（竹中均）／台湾における民芸運動の受容―柳宗悦と顔水龍―（林承緯）／インドの手工芸と振興活動―ラバーリー社会を事例に―（上羽陽子）

▶A5判・336頁／定価3,045円　　ISBN978-4-7842-1438-9

アーツ・アンドクラフツと日本

デザイン史フォーラム編・藤田治彦責任編集

鑑賞を念頭に制作される美術工芸とは異なる「生活」のための工芸運動であり、また社会改革をめざすデザイン運動でもあったアーツ・アンド・クラフツ運動と日本との関わりをさまざまな視点から論じ、デザイン・工芸・美術・社会・産業・環境・生活などの立体的な関係を考察する一助とする。

▶A5判・304頁／定価3,045円　　ISBN4-7842-1207-8

国際デザイン史

日本の意匠と国際交流

デザイン史フォーラム編・藤田治彦責任編集

1999・2000年に開催された「国際デザイン史フォーラム」（大阪大学大学院文学研究科美学研究室主催）をもとに、デザイン史における日本と西洋諸国との交流を探る56篇を収める。各国の始めに理解の一助となる年表と概説的解説を付す。豊富な挿図（モノクロ）約180点を掲載。

▶A5判・304頁／定価3,045円　　ISBN4-7842-1079-2

日名子実三の世界

昭和初期彫刻の鬼才

広田肇一編

鬼才と呼ぶにふさわしい鋭い才能で、日本近代彫刻史に確かなページを記した日名子実三の足跡を、残された作品と資料によって検証し、日名子芸術の全貌を紹介する。巻頭には大型カラー図版を配し、人体像を中心とした彫像のほか、各種のメダルや大型の記念碑など従来の彫刻の範疇を越えた多岐にわたる活動を総覧できる決定版。

▶B5判・カラー 24頁・モノクロ145頁／定価2,100円
ISBN978-4-7842-1436-5

戸田勝久画集 空の調べ

最新刊

1999–2008

戸田勝久著

アクリル画の吟遊詩人ともいうべき幻想的な画風の戸田勝久が奏でる、懐かしい夢の世界。1999年から2008年までのアクリル画作品のなかから154点をカラーで掲載。

とだ・かつひさ…画家．1945年神戸生まれ．関西学院大学，嵯峨美術短期大学卒．『蕪村全句集』『江戸川乱歩著書目録』装幀挿画，ユリイカ「稲垣足穂特集」挿画なども手がける．

▶B4判変型・96頁／定価3,990円
ISBN978-4-7842-1441-9

お買い漏れはありませんか？——思文閣出版 過去3年間の刊行図書一覧

書　名　サブタイトル・シリーズ名
編著者名
▶判型・頁数／定価（税5%込）　（刊行年月）

通史・論集

上賀茂のもり・やしろ・まつり
大山喬平監修／石川登志雄・宇野日出生・地主智彦編
▶A5判・412頁／定価2,940円　（'06/06）

八瀬童子　歴史と文化
宇野日出生著
▶46判・210頁／定価1,890円　（'07/04）

石山寺の信仰と歴史
鷲尾遍隆監修／綾村宏編
▶A5判・180頁／定価1,890円　（'08/03）

公家と武家Ⅲ　王権と儀礼の比較文明史的考察
笠谷和比古編
▶A5判・458頁／定価8,190円　（'06/11）

公家と武家Ⅳ　官僚制と封建制の比較文明史的考察
笠谷和比古編
▶A5判・544頁／定価8,925円　（'08/03）

王権と都市
今谷明編
▶A5判・372頁／定価7,140円　（'08/03）

東アジアの交流と地域諸相
金沢星稜大学ORC　代表藤井一二編
▶B5判・170頁／定価3,360円　（'06/05）

丹後地域史へのいざない
上田純一編
▶46判・184頁／定価1,680円　（'07/03）

東海地域文化研究　その歴史と文化
名古屋学芸大学短期大学部東海地域文化研究所編
▶A5判・396頁／定価3,675円　（'06/04）

金鯱叢書　【第33・34輯】
徳川黎明会編
▶B5判／定価（各）9,975円　（'06/10・'08/05）

日本史古代

日本古代の伝承と歴史
渡里恒信著
▶A5判・372頁／定価6,300円　（'08/03）

蓬萊山と扶桑樹　日本文化の古層の探究
岡本健一著
▶A5判・442頁／定価5,775円　（'08/08）

塼仏の来た道　白鳳期仏教受容の様相
後藤宗俊著
▶A5判・320頁／定価5,985円　（'08/11）

御堂関白記全注釈　【寛弘4・5・8年】
山中裕編
▶A5判・平均220頁　（'06/06 '07/05 '07/11）
寛弘4年-定価5,775円・5年-5,250円・8年-5,775円

摂関時代文化史研究　思文閣史学叢書
関口力著
▶A5判・488頁／定価9,450円　（'07/03）

想音
白井嵯千著
▶46判・192頁／定価2,100円　（'06/06）

大地へのまなざし　歴史地理学の散歩道
金田章裕著
▶A5判・322頁／定価4,725円　（'08/06）

日本史中世

禁裏・公家文庫研究　第二輯
田島公編
▶B5判・400頁／定価10,290円　（'06/04）

兵範記人名索引
兵範記輪読会編
▶A5判・484頁／定価9,450円　（'07/05）

鎌倉時代の権力と制度
上横手雅敬編
▶A5判・358頁／定価6,825円　（'08/09）

経筒が語る中世の世界　別府大学文化財研究所企画シリーズ1
小田富士雄・平尾良光・飯沼賢司編
▶B5判・236頁／定価5,040円　（'08/05）

花園院宸記　【第15～17回配本】
宮内庁書陵部編
▶巻子装／定価（各）399,000円　（'06/05 '07/05 '08/05）

増補・改訂　南北朝期公武関係史の研究
森茂暁著
▶A5判・612頁／定価9,450円　（'08/08）

中世日本の政治と文化　思文閣史学叢書
森茂暁著
▶A5判・480頁／定価9,450円　（'06/10）

南都寺院文書の世界
勝山清次編
▶A5判・350頁／定価6,090円　（'07/10）

室町・戦国期研究を読みなおす
中世後期研究会編
▶A5判・408頁／定価4,830円　（'07/10）

東寺百合文書　【第四～六巻】ロ函四～二函一
京都府立総合資料館編　（'06/10 '07/10 '08/10）
▶A5判・平均447頁／定価（各）9,975円

京都文化の伝播と地域社会　思文閣史学叢書
源城政好著
▶A5判・400頁／定価8,190円　（'06/10）

中世蹴鞠史の研究　鞠会を中心に
稲垣弘明著
▶A5判・300頁／定価5,775円　（'08/01）

棟札の研究（2刷）
水藤真著
▶A5判・230頁／定価3,990円　（'08/10）

中世・近世の村と地域社会
西村幸信著
▶A5判・404頁／定価6,510円　（'07/06）

室町期東国社会と寺社造営　思文閣史学叢書
小森正明著
▶A5判・356頁／定価7,350円　（'08/07）

系譜伝承論　佐々木六角氏系図の研究
佐々木哲著
▶46判・360頁／定価3,990円　（'07/11）

戦国大名の外交と都市・流通　豊後大友氏と東アジア世界
鹿毛敏夫著　思文閣史学叢書
▶A5判・300頁／定価5,775円　（'06/03）

（2006/1～2008/11、品切除） 残部僅少のものもございます 万一品切の節はご容赦下さい

戦国期関東公方の研究 思文閣史学叢書
阿部能久著
▶A5判・320頁／定価5,985円 ('06/04)

織豊期の茶会と政治
竹本千鶴著
▶A5判・494頁／定価7,875円 ('06/10)

瀬戸内海地域社会と織田権力 思文閣史学叢書
橋詰茂著
▶A5判・396頁／定価7,560円 ('07/01)

日本史近世

隔蓂記 全7巻（本篇6巻・総索引1巻）
赤松俊秀本文校訂／『隔蓂記』研究会索引編集
▶A5判・総5,130頁／定価73,500円 ('06/07)

隔蓂記 総索引
『隔蓂記』研究会編
▶A5判・760頁／定価14,700円 ('06/07)

住友史料叢書 【20～22】
住友史料館編 ('06/01 '06/12 '07/12)
▶A5判・平均425頁／定価（各）9,975円

徳川将軍家領知宛行制の研究 思文閣史学叢書
藤井譲治著
▶A5判・412頁／定価7,875円 ('08/09)

近世社会と百姓成立 構造論的研究
渡邊忠司著 佛教大学研究叢書1
▶A5判・310頁／定価6,825円 ('07/03)

畿内の豪農経営と地域社会
渡辺尚志編
▶A5判・508頁／定価8,190円 ('08/03)

近世寺社参詣の研究
原淳一郎著
▶A5判・412頁／定価6,615円 ('07/09)

十九世紀日本の園芸文化 江戸と東京、植木屋の周辺
平野恵著
▶A5判・544頁／定価6,825円 ('06/04)

東アジアの本草と博物学の世界（2刷） 【上・下】
山田慶兒編
▶A5判・平均370頁／定価（各）7,875円 ('07/10)

朝鮮通信使の研究（2刷）
李元植著
▶A5判・736頁／定価15,750円 ('06/11)

長崎奉行の研究
鈴木康子著
▶A5判・420頁／定価6,510円 ('07/03)

近世長崎・対外関係史料
太田勝也編
▶A5判・728頁／定価16,800円 ('07/10)

京・近江・丹後大工の仕事 近世から近代へ
建部恭宣著
▶A5判・270頁／定価5,775円 ('06/02)

日本史近代・文化研究

吉田清成関係文書 4 京都大学史料叢書9
京都大学文学部日本史研究室編
▶A5判・本文492頁／定価15,750円 ('08/07)

明治維新史という冒険 佛教大学鷹陵文化叢書18
青山忠正著
▶46判・332頁／定価2,520円 ('08/03)

条約改正交渉史 1887～1894
大石一男著
▶A5判・356頁／定価6,825円 ('08/10)

貴族院と立憲政治
内藤一成著
▶A5判・438頁／定価7,980円 ('06/01)

日中戦争から世界戦争へ
永井和著
▶A5判・516頁／定価7,980円 ('07/02)

日中戦争についての歴史的考察
明石岩雄著
▶A5判・352頁／定価5,775円 ('07/04)

みやこの近代
丸山宏・伊從勉・高木博志編
▶A5判・268頁／定価2,730円 ('08/03)

近代京都研究
丸山宏・伊從勉・高木博志編
▶A5判・628頁／定価9,450円 ('08/08)

近代茶道の歴史社会学
田中秀隆著
▶A5判・454頁／定価6,825円 ('07/12)

茶道と恋の関係史
岩井茂樹著
▶A5判・232頁／定価3,990円 ('06/07)

民芸運動と地域文化 民陶産地の文化地理学
濵田琢司著
▶A5判・304頁／定価5,145円 ('06/02)

関西モダニズム再考
鈴木貞美・竹村民郎編
▶A5判・616頁／定価8,925円 ('08/01)

昭和初期 一移民の手紙による生活史 ブラジルのヨッチャン
中野卓・中野進編
▶A5判・294頁／定価2,940円 ('06/04)

布がつくる社会関係 インド絞り染め布とムスリム職人の民族誌
金谷美和著
▶A5判・330頁／定価6,510円 ('07/04)

思想史・教育史

「封建」・「郡県」再考 東アジア社会体制論の深層
張翔・園田英弘編
▶A5判・412頁／定価6,825円 ('06/06)

近世儒者の思想挑戦
本山幸彦著
▶A5判・314頁／定価7,875円 ('06/05)

近世地域教育史の研究
木村政伸著
▶A5判・290頁／定価5,985円 ('06/01)

続 洪庵・適塾の研究
梅溪昇著
▶A5判・726頁／定価9,975円 ('08/01)

増補・改訂 西村茂樹全集 【第4～6巻】
（社）日本弘道会編 ('06/08 '07/12 '08/11)
▶A5判・平均785頁／4巻-定価17,850円・5巻6巻-（各）18,900円

森有礼における国民的主体の創出
長谷川精一著
▶A5判・466頁／定価9,450円 ('07/11)

明治前期の教育・教化・仏教
谷川穣著
▶A5判・372頁／定価6,090円 ('08/01)

お買い漏れはありませんか？——思文閣出版 過去3年間の刊行図書一覧

三高の見果てぬ夢 中等・高等教育成立過程と折田彦市
厳平著
▶A5判・352頁／定価7,875円 ('08/06)

岩倉使節団における宗教問題
山崎渾子著
▶A5判・250頁／定価3,990円 ('06/09)

新島襄を語る 【2〜5】
本井康博著 ('06/01 '07/02 '07/10 '08/07)
▶46判・平均250頁／定価(各)1,995円

近代新潟におけるプロテスタント
本井康博著
▶B5判・540頁／定価3,150円 ('06/11)

近代新潟におけるキリスト教教育 新潟女学校と北越学館
本井康博著
▶B5判・312頁／定価3,150円 ('07/12)

増補 郷土教育運動の研究
伊藤純郎著
▶A5判・506頁／定価10,290円 ('08/05)

仏教・仏教史

仏教思想と浄土教（2刷）
水谷幸正著
▶A5判・728頁／定価12,600円 ('07/12)

善導大師と法然上人 念仏に生きる
水谷幸正著 佛教大学鷹陵文化叢書別巻
▶46判・272頁／定価2,520円 ('08/03)

中国近世における国家と禅宗
西尾賢隆著
▶A5判・370頁／定価7,875円 ('06/03)

平安期の願文と仏教的世界観 佛教大学研究叢書2
工藤美和子著
▶A5判・366頁／定価6,825円 ('08/03)

権者の化現 天神・空也・法然
今堀太逸著 佛教大学鷹陵文化叢書15
▶46判・312頁／定価2,415円 ('06/09)

陰陽道の神々 佛教大学鷹陵文化叢書17
斎藤英喜著
▶46判・292頁／定価2,415円 ('07/09)

関山慧玄と初期妙心寺
加藤正俊著
▶A5判・390頁／定価6,825円 ('06/02)

相国寺蔵 西笑和尚文案 自慶長二年至慶長十二年
伊藤真昭・上田純一・原田正俊・秋宗康子編
▶A5判・392頁／定価7,350円 ('07/04)

本能寺史料 中世篇
藤井学・上田純一・波多野郁夫・安国良一編
▶A5判・426頁／定価15,750円 ('06/06)

医学史

古代日本の生命倫理と疾病観（2刷）
大星光史著
▶A5判・466頁／定価3,675円 ('07/08)

中国における妊娠・胎発生論の歴史
中村禎里著
▶46判・256頁／定価2,940円 ('06/03)

文学に見る痘瘡
川村純一著
▶A5判・300頁／定価5,250円 ('06/11)

櫟園小石先生叢話 複刻と解説
正橋剛二編著
▶A5判・124頁／定価4,200円 ('06/11)

江戸期文化人の死因
杉浦守邦著
▶A5判・340頁／定価2,625円 ('08/08)

オランダにおける蘭学医書の形成
石田純郎著
▶A5判・336頁／定価7,140円 ('07/03)

眼科医家人名辞書
奥沢康正・園田真也編
▶A5判・304頁／定価4,200円 ('06/11)

東大医学部初代綜理池田謙斎 池田文書の研究【上・下】
池田文書研究会編 ('06/03 '07/03)
▶A5判・上-350頁・下-414頁／定価(揃)15,330円(分売可)

医譚（第1号〜第17号）
日本医史学会関西支部（杏林温故会）編
▶A5判・1140頁／定価25,200円 ('08/11)

技術史・産業史

日本産業技術史事典
日本産業技術史学会編
▶B5判・550頁／定価12,600円 ('07/07)

技術と文明 29 15巻2号
日本産業技術史学会編
▶B5判・78頁／定価2,100円 ('07/04)

朝顔明鑑鈔 影印と翻刻
三村森軒著／小笠原亮編
▶A5判・336頁／定価4,200円 ('06/07)

絶対透明の探求 遠藤高璟著『写法新術』の研究
尾鍋智子著
▶A5判・310頁／定価6,090円 ('06/08)

近世吉野林業史
谷彌兵衛著
▶A5判・538頁／定価9,765円 ('08/02)

近世後期瀬戸内塩業史の研究
山下恭著
▶A5判・300頁／定価6,300円 ('06/03)

鉄道日本文化史考
宇田正著
▶A5判・352頁／定価5,775円 ('07/04)

文明随想 継承と移転（2刷） 日本の底力を読む
小林達也著
▶46判・220頁／定価2,625円 ('06/01)

竹の経済史 西日本における竹産業の変遷
岩井吉彌著
▶A5判・208頁／定価4,725円 ('08/06)

経済史文献解題 【2004(平成16)・2005(平成17)年版】
大阪経済大学日本経済史研究所編
▶46判・平均777頁／定価(各)14,490円 ('06/02 '07/04)

文学・比較文学

正倉院文書の国語学的研究
桑原祐子著
▶A5判・300頁／定価5,670円 ('06/01)

京都源氏物語地図
紫式部顕彰会編纂／角田文衛監修／加納重文編集
▶地図1枚(A2判)＋別冊解説／定価840円 ('07/11)

一千年目の源氏物語 シリーズ古典再生1
伊井春樹編
▶46判・252頁／定価1,680円 ('08/05)

源氏物語 千年のかがやき
国文学研究資料館編
▶A4判・168頁／定価1,995円 ('08/09)

俊頼髄脳の研究
鈴木徳男著
▶A5判・308頁／定価8,400円 ('06/03)

平成新修古筆資料集 【第3・4集】
田中登編
▶A5判・平均236頁／定価（各）2,625円 ('06/01・'08/10)

孝子伝の研究（2刷）
黒田彰著
▶46判・486頁／定価3,150円 ('08/02)

太平記 龍谷大学善本叢書26
龍谷大学仏教文化研究所編
▶A5判・794頁／定価15,750円 ('07/10)

日本古典随筆の研究と資料
糸井通浩編 龍谷大学仏教文化研究叢書19
▶A5判・482頁／定価7,560円 ('07/04)

増補 蓮月尼全集
村上素道編
▶A5判・770頁／定価12,600円 ('06/10)

太宰文学の女性像
青木京子著
▶A5判・336頁／定価2,940円 ('06/07)

文学のなかの考古学 佛教大学鷹陵文化叢書19
門田誠一著
▶46判・308頁／定価2,415円 ('08/09)

俳句とジャポニスム メキシコ詩人タブラーダの場合
太田靖子著
▶A5判・328頁／定価6,090円 ('08/07)

ヴィクトリア朝英国と東アジア
川本皓嗣・松村昌家編 大手前大学比較文化研究叢書3
▶A5判・280頁／定価3,360円 ('06/04)

夏目漱石における東と西 大手前大学比較文化研究叢書4
松村昌家編
▶A5判・208頁／定価2,940円 ('07/03)

阪神文化論 大手前大学比較文化研究叢書5
川本皓嗣・松村昌家編
▶A5判・290頁／定価3,360円 ('08/04)

未知への模索 毛沢東時代の中国文学
吉田富夫著 佛教大学鷹陵文化叢書14
▶46判・290頁／定価2,415円 ('06/03)

美術史・工芸・絵画

正倉院宝物に学ぶ
奈良国立博物館編
▶46判・438頁／定価3,150円 ('08/10)

正倉院展六十回のあゆみ
奈良国立博物館編集・発行
▶A4判・286頁／定価3,150円 ('08/11)

続日本仏教美術史研究
中野玄三著
▶A5判・500頁／定価11,550円 ('06/02)

東寺宝物の成立過程の研究
新見康子著
▶A5判・638頁／定価12,600円 ('08/02)

三藐院 近衛信尹 残された手紙から
前田多美子著
▶A5判・270頁／定価2,415円 ('06/05)

尾陽 【第3・4号】 徳川美術館論集
徳川美術館編 ('06/11・'08/10)
▶B5判・3号-184頁・4号-212頁／定価（各）3,150円

近世御用絵師の史的研究 幕藩制社会における絵師の身分と序列
武田庸二郎・江口恒明・鎌田純子編
▶A5判・458頁／定価7,875円 ('08/03)

酔うて候 河鍋暁斎と幕末明治の書画会
河鍋暁斎記念美術館・成田山書道美術館編
▶A4判・160頁／定価2,100円 ('07/12)

祭りのしつらい 町家とまち並み
岩間香・西岡陽子編
▶B5判・224頁／定価2,310円 ('08/02)

ジャポニスム入門（5刷）
ジャポニスム学会編
▶A5判・288頁／定価2,940円 ('06/10)

バーナード・リーチ再考 スタジオ・ポタリーと陶芸の現代
エドモンド・ドゥ・ヴァール著／金子賢治解説・監訳／鈴木禎宏解説
北村仁美・外舘和子訳
▶A5判・298頁／定価5,040円 ('07/09)

国際デザイン史（3刷） 日本の意匠と東西交流
デザイン史フォーラム編
▶A5判・304頁／定価3,045円 ('07/04)

近代工芸運動とデザイン史
デザイン史フォーラム編／藤田治彦責任編集
▶A5判・336頁／定価3,045円 ('08/09)

根付 高円宮コレクションⅡ
高円宮妃久子編
▶菊判・220頁／定価4,200円 ('06/01)

アートに学ぶ 作家たちがめぐる心の冒険
柴辻政彦著
▶A5判・238頁／定価2,520円 ('06/12)

日名子実三の世界 昭和初期彫刻の鬼才
広田肇一著
▶B5判・170頁／定価2,100円 ('08/09)

空の調べ
戸田勝久著
▶B4判変型・96頁／定価3,990円 ('08/10)

エッセイ・その他

ブラームスと芭蕉たち 現代に生きる太古の思想
吉江久彌著
▶46判・266頁／定価2,100円 ('07/04)

私の中の20世紀の外国映画
清田嘉宣著
▶A5判・230頁／定価1,995円 ('06/07)

伊藤孝男の百人一首・競技かるた 速く・強く・そして美しく
伊藤孝男著
▶46判・216頁／定価1,785円 ('07/11)

ありがとう、あなたへ（6刷）
阿南慈子著
▶46判・208頁／定価1,260円 ('08/07)

書評・紹介一覧　9～11月掲載分

※(評)…書評　(紹)…紹介　(記)…記事〔敬称略〕

東大医学部初代綜理池田兼斎(上・下)
(評)『古文書研究』66号(真辺将之)

織豊期の茶会と政治
(評)『国史学』(国学院大学) 193号(渡辺江美子)

オランダにおける蘭学医書の形成
(評)『化学史研究』35巻3号(松村紀明)

長崎奉行の研究
(評)『日本史研究』554号(松尾晋一)

兵範記人名索引
(評)『古文書研究』66号(藤原重雄)

江戸時代唐船による日中文化交流
(評)『日本歴史』725号(渡辺美季)

近世寺社参詣の研究
(評)『古文書研究』66号(滝口正哉)

森有礼における国民的主体の創出
(評)『日本歴史』725号(犬塚孝明)

南都寺院文書の世界
(評)『日本歴史』724号(畠山聡)

室町・戦国期研究を読みなおす
(評)『日本歴史』726号(黒嶋敏)

続 洪庵・適塾の研究
(評)『日本醫史學雑誌』54巻3号(小田皓二)

祭りのしつらい
(紹)『日本歴史』724号

みやこの近代
(紹)MK新聞 10/1

善導大師と法然上人
(紹)『在家佛教』2008年9月号

竹の経済史
(評)『森林技術』798号(内村悦三)

蓬萊山と扶桑樹
(評)毎日新聞 10/5(張競)

元祖リベラリスト
(紹)*The Doshisha Times* 9/15

俳句とジャポニスム
(評)奈良新聞 10/5(片倉充造)
(紹)日本経済新聞 10/27

江戸期文化人の死因
(紹)読売新聞 9/26
(評)奈良新聞 10/20(嘉瀬井整夫)

文学のなかの考古学
(紹)中外日報 10/25

日名子実三の世界
(紹)大分合同新聞 9/22
(紹)朝日新聞西部本社版夕刊 9/26
(紹)大分合同新聞 9/29

源氏物語　千年のかがやき
(紹)奈良新聞 10/20

正倉院宝物に学ぶ
(紹)読売新聞夕刊 11/6

9月から11月にかけて刊行した継続図書

シリーズ名	配本回数	巻数	巻タイトル	ISBN978-4-7842	TRC	NPL	OPL	定価	発行月
佛教大学鷹陵文化叢書	19	19	文学のなかの考古学	1430-3 C1021	08053091	105330500	7405111	2,415	9
平成新修古筆資料集	4	4		1427-3 C1392	08053087	105334300	7405145	2,625	10
東寺百合文書	6	6	ハ函三・二函一	1435-8 C3321	08054500	105409300	7420045	9,975	10
尾陽	4	4		1406-8 C1313	08055995	105386300	7459621	3,150	10
増補・改訂　西村茂樹全集	6	6	訳述書2	1443-3 C3312				18,900	11

9月から11月にかけて刊行した図書

図書名	著者名	ISBN978-4-7842	TRC	NPL	OPL	定価	発行月
近代京都研究	丸山宏・伊從勉・高木博志編	1413-6 C3021	08046945	105105300	7282478	9,450	9
徳川将軍家領知宛行制の研究	藤井譲治著	1431-0 C3021	08049180	105331700	7336423	7,875	9
鎌倉時代の権力と制度	上横手雅敬編	1432-7 C3021	08049188	105331100	7336407	6,825	9
日名子実三の世界	広田肇一著	1436-5 C0071	08049167	105332000	7371164	2,100	9
近代工芸運動とデザイン史	デザイン史フォーラム編	1438-9 C1072	08051698	105332100	7371149	3,045	9
棟札の研究(2刷)	水藤真著	1243-9 C3021		065197000	9325242	3,990	10
源氏物語　千年のかがやき	国文学研究資料館編	1437-2 C1090	08054515	105386200	7420086	1,995	10
条約改正交渉史	大石一男著	1419-8 C3021	08054501	105387200	7419963	6,825	10
空の調べ	戸田勝久著	1441-9 C0071	08056807	105388500	7446834	3,990	10
正倉院宝物に学ぶ	奈良国立博物館編	1439-6 C1070	08057251		7477110	3,150	10
正倉院展六十回のあゆみ	奈良国立博物館編	1440-2 C1070	08058270		7477417	3,150	10
塼仏の来た道	後藤宗俊著	1433-4 C3021				5,985	11

(表示価格は税5%込)

▶てぃーたいむ余録◀　学術の世界にも成果主義の嵐が吹きあれています。かくいう小社も、もうかる・もうからないという「評価」を下す側ですが、嵐の中で咲く花もあると信じます。　(h)

▶表紙図版◀
遊仙窟の一場面(『風俗游仙窟』)(『幸田露伴の世界』より)

株式会社 思文閣出版
〒606-8203　京都市左京区田中関田町2-7　☎075-751-1781㈹　FAX.075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp/　e-mail: pub@shibunkaku.co.jp